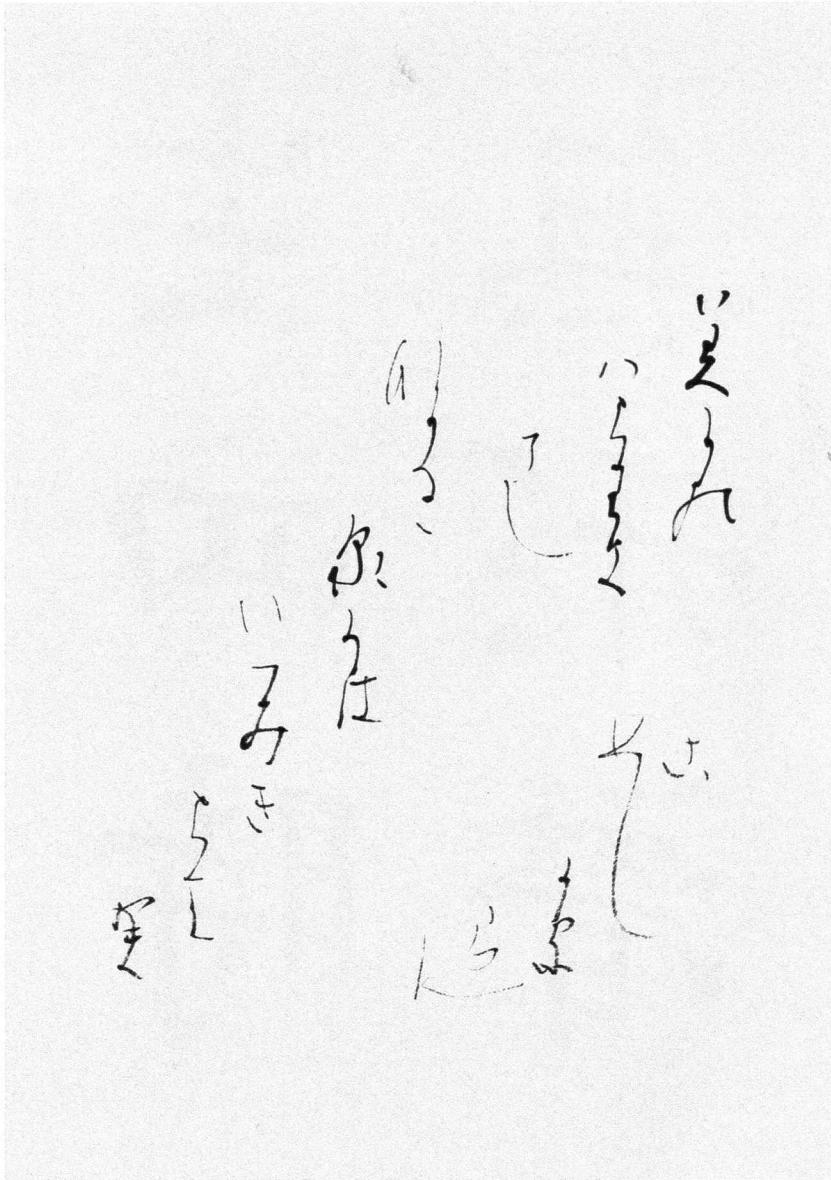


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

みかの原わきて流るるいづみ川 　いつ見きとてか恋しかるらむ

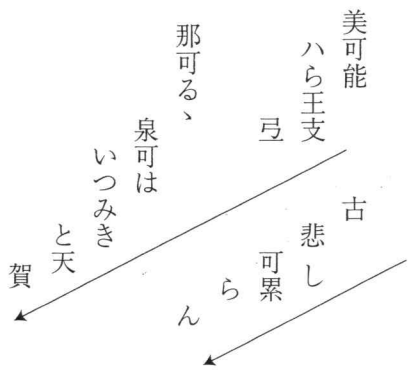
ちゅうなごんかねすけ  
中納言兼輔



〔歌意〕  
みかの原から湧いて流れる「いづみ川」の名のように、私はあの人をいつ見たからといって、こんなにも恋しいのだろうか。・いづみ川は今の木津川。  
この歌は『新古今集』(恋・九九六番)に出ています。

(中納言兼輔)  
藤原兼輔。(八七七〜九三三)年、五七歳。紫式部の曾祖父。

〈字母〉



上下2集団構成で、上部を強く、下部を軽く書かれています。

中村素堂先生の書 大島香菊様提供

(青藍)